

古英語 *gereccan* とラテン語 *corrigere* について

石原 覚

I

以下は、悪人と正しい人を対比したウルガータ (Vulgata)¹ の箴言の一節である。ここには「正す」などの意味を持つ動詞 *corrigere* が用いられている。

(1) *vir impius procaciter obfirmat vultum suum qui autem rectus est corrigit viam suam* (Prv 21:29)²

(邪悪な者は厚かましく顔をこわばらせるが、正しい人は自分の道を直す(真っ直ぐに設ける)。

「導く、指導する、支配する」(“*to guide, direct, govern*”)³ の意味を持つ古英語の動詞 *gereccan* は、後に示すように、ラテン語 *corrigere* の訳語となることがあるが、(1) の *corrigere* にも次のごとく *gereccan* が注解として当てられている。

(2) *corrigit gerecð* (OccGl 49 21.29)⁴

注目すべきは、(2) の *gereccan* が⁵, Bosworth-Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary* (BT)⁵ の *Supplement* (BTS), s.v. *gereccan* IV(3a) の「正す」(“*to correct*”)において、唯一の例として挙げられていることである。本稿では、この BTS の例示には問題があるのではないかということを指摘したい。

以下 *gereccan* が「導く」などの意味においてどのように用いられているかを典型例で示す。まずこの語は、例えば次の (3)(4) に見られるごとく、人を導くことについて用いられる。

(3) *He hie gereceb to eallum godum, and he hie gelædeþ on sibbe gesyhþe;* (HomS 21 254)⁶

(彼[キリスト]は彼ら[天の王を心に抱くに値する人々]をあらゆる善へと導き、平安の光景へと至らせるであろう。)

(4) *swiðe ryht is seo cynegyrd þines rices, seo gerecð ælcne mann oþþe to þinum*

willan oððe to wite. (PPs (prose) 44.8)⁷

（あなたの王国の笏は極めて正しく、それは一人一人をあなたの意思へ、あるいは罰へと導く。）

次いでこの語は、(5)(6)に見られるように、人以外のものを導くことについても用いられる。

(5) & mid heora cyningum, . . . Romane burig abraecon, & eall Italia rice þæt is betwux þam muntum & Sicilia þam ealonde in anwald gerehton, (Bo 1.7.2)⁸

（[ゴート人たちが]……彼らの王たちと共にローマ人たちの都を破壊し、山々からシチリア島までの全イタリアの領土を支配下に導いた。）

(6) Mid þam ilcan gerece is gereiht swiðe anlic gewrixle þæs flodes & þæs ebban. (Bo 21.49.25)⁹

（同じ秩序により支配されているのが、非常に良く似た潮の干満の変化である。）

II

本章では、gereccan とラテン語との対応関係を、古英語訳とラテン語原文を並べて示す。

この語は、「導く、指導する、支配する」の意味を共有するため、次のごとく regere の訳語になることがある。(7) では人を導くことについて、(8) では人以外のものを導くことについて用いられた regere が gereccan により訳されている。

(7) Gehæl, Drihten, þin folc, and gebletsa þin yrfeland, and gerece þa þe þær on eardiað, and hi upp ahefe on ecnesse. (PPs (prose) 27.10)

（主よ、あなたの民を救い、あなたの所有する土地を祝福し、そこに住む人々を支配し、彼らを永遠に引き上げ給え。）

. . . et rege eos et extolle illos usque in saeculum. (Ps 27:9)¹⁰

（……彼らを支配し、彼らを永遠に引き上げ給え。）

(8) Ðonne bið ðæt rice wel gereht, ðonne se ðe ðærfore bið suiðor wilnað ðæt he ricsige ofer monna unðeawas ðonne ofer oðre gode menn. (CP 17.117.9)¹¹

(統治は、指揮する人が、他の善人たちより人間の悪徳の方を支配しようと欲するとき、うまく導かれる。)

Summus itaque locus bene regitur, cum is qui praeest, uitis potius quam fratribus dominatur. (GREG.MAG. Reg.past. 2.6.112)¹²

(よって最高位は、指揮する人が兄弟たちより悪徳の方を支配するとき、うまく導かれる。)

次に *gereccan* は、以下のごとく、*regere* に由来する *dirigere* (導く、指導する) の訳語になることもある。(9)(10) では、人を導くことについて用いられた *dirigere* が *gereccan* へと訳されている。

(9) *Beseoh on þine scealcas swæsum eagum and on þin agen weorc, ece drihten, and heora bearn gerece bliðe mode.* (PPs 89.18)¹³

(永遠の主よ、優しい目であなたの僕たちを、あなた自身が造り出した物を見、彼らの子らを明朗な心で導き給え。)

... *et dirige filios eorum* (Ps 89:16)

(……彼らの子らを導き給え。)

(10) *Gerece me nu on þone wæg þe þin willa sy.* (LS 23 (MaryofEgypt) 550)¹⁴

(さあ、あなたの望みの道へと私を導いて下さい。)

Nunc ubi tibi conplacet, dirige me. (PAUL.DIAC.NEAP. Vit.Mar.Egypt. 17, 544)¹⁵

(さあ、あなたの望むところへ私を導いて下さい。)

(11)(12) では、人以外のものを対象とする *dirigere* が *gereccan* により訳されている。

(11) *Abrahames god & isaecces god & iacobes god sy symble mid þe on þinum <siþf>æte & gerecce þine stæpas* (LS 13 (Machutus) 30v.11)¹⁶

(アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神が常にあなたの旅に共にあり、あなたの歩みを導くように。)

... *et diriget gressus tuos* (BILI. Vit.Mach.)

(……[神が]あなたの歩みを導くであろう。)

(12) *Onlihtan þam þe on ðystrum & on deaþes sceade sittað. ure fet to gereccenne on sybbe weg;* (Lk (WSCp) 1.79)¹⁷

〔[神が]暗闇と死の陰とに座す者たちを照らし、我々の足を平安の道へと導くために。〕

... ad *dirigendos* pedes nostros in viam pacis (Lc) .

〔[昇る光が]……我々の足を平安の道へと導くために。〕

さらにこの語は、以下のように、*dirigere* 同様 *regere* に由来する *corrigere* の訳語としても現れる。(13)(14)では人を矯正することについて用いられた *corrigere* が *gereccan* により表されている。

(13) Forðon is ned þætte sume mid woningum sume þearlicor, sume liðelecor, *synd gerehte*. (Bede I 16.68.4)¹⁸

〔よってある者は科料により、ある者はより厳しく、ある者はより優しく矯正される必要がある。〕

unde necesse est, ut quidam damnis, . . . quidam autem lenius *corrigitur*. (BEDA. Hist.eccl. 1.27, 82)¹⁹

〔よってある者は科料により、……またある者はより優しく矯正される必要がある。〕

(14) Alle Bretta biscopas we bebeodað þinre broðorlicnesse, to ðon þætte unlærde seon gelærede, & untrume mid þinre trymenisse syn gestrongade, & unrehte mid þinre aldorlicnesse *seon gerehte*. (Bede I 16.74.7)

〔我々はすべてのブリトン人の司教をあなたに託す。無学な者が教えられ、弱い者があなたの励ましにより強められ、不義の者があなたの権威により正されるようにと。〕

... ut . . . infirmi persuasione roborentur, peruersi auctoritate *corrigitur*. (BEDA. Hist.eccl. 1.27, 88)

〔……弱い者が説得により強められ、よこしまな者が権威により正されるようにと。〕

同様に、罪のある人間を対象とする *corrigere* が *gereccan* に訳されるケースは Bede 2 5.110.32に見られる。(15)(16)では人以外の対象を是正することについて用いられた *corrigere* が *gereccan* へと訳されている。

(15) hafa ðu mid þone ilcan biscop sprece & geþeahte hwæt to donne sy, oðþo gif

hwelc uncyste in biscopum gemette syn, hu þa gerehte & gebette beon scylen.
(Bede 1 16.72.25)

(何をなすべきか、またもし司教たちの中に何らかの悪徳が見出されたなら、それらがいかに正され、改善されるべきか、その同じ司教と話し、相談しなさい。)

... qualiter, si qua sunt in episcopis uitia, corrigantur. (BEDA. Hist.eccl. 1.27, 86)
(司教たちの中にあるような何らかの悪徳がいかに正されるべきか、……)

(16) þa se biscop þæt þa ne meahte bewerian ond gereccan, þa amænsumade he hine,
(Bede 3 16.228.10)

(司教は、それ[違法な婚姻]を妨げ、正すことができなかつたとき、彼を破門した。)

quod cum episcopus prohibere et corrigere non posset, ... (BEDA. Hist.eccl. 3.22, 284)

(司教は、それを妨げ、正すことができなかつたので、……)

同じく、人間以外のもの——error (逸脱, 錯誤)——について用いられた corrigere を訳すのに gereccan が用いられた例には Bede 3 22.250.20; Bede 4 28.362.17; Bede 5 14.442.2 がある。さらに Bede 2 5.114.5 では、罪のある人々 (vulgus) を対象とする recorigere が gereccan へと訳されている。

III

前章で「正す」の意味で用いられ、gereccan に訳された corrigere を例示したが、重要なのは、corrigere には「(曲がったものを) 真っ直ぐにする」(“(etw. krummes) gerade richten, gerade machen”)²⁰ の意味があり、「正す」の意味はそれに由来すると考えられる²¹ ことである。以下その本来的意味で用いられた corrigere の典型例²² を示す。まず (17)(18) は、真っ直ぐではない事物を表す語と共に corrigere が用いられている例である。

(17) Invenimus, qui curva corrigeret! (Plin. Ep. 5.9.6)²³

(曲がった物を真っ直ぐにする人を我々は見つけた。)

(18) petito speculo capillum sibi comi ac malas labantes corrigi praecepit (Suet. Aug.

99.1)²⁴

（彼は鏡を求めると、自分の頭髮をくしけずよう、また落ちくぼんだ頬を直すよう命じた。）

次に(19)(20)は、文脈から *corrige* と共に用いられている語が真っ直ぐではないことが明らかである例である。

(19) *Coelius unus, . . . postremo abreptam tempestate ab Africa classem ad insulam Aegimurum inde aegre correctum cursum exponit, (Liv. 29.27.14)²⁵*

（コエリウスのみが、……ついには船団がアフリカからアエギムルス島まだ嵐で吹き流され、そこからようやく針路を直したことを記している。）

(20) *scripta "soror" fuerat; visum est delere sororem verbaque correctis incidere talia ceris: (Ov. Met. 9.528)²⁶*

（「姉妹」と書かれたが、姉妹を消し、均した蠟板に次のような言葉を刻むのが良いと思われた。）

ウルガータにも次のごとく、(19)(20)と同様の *corrige* の例が見られる。

(21) *et sic correctae sunt semitae eorum qui in terris sunt et quae tibi placent didicerunt homines et per sapientiam sanati sunt (Sap 9:18)*

（かくて地上にある者たちの道は真っ直ぐにされ、人々はあなたの喜ぶ事を学び、知恵により救われた。）

(21) でこの語は、神から与えられた知恵により人間の生き方が正されたことについて用いられている。

問題の(1)について *Beda Venerabilis* (735 没)²⁷ は次のごとく述べ、*corrige* をベテロの悔悟と関連付けている。

(22) *Iudas quia impius corde erat quamvis ipso domino se redarguente noluit mala coepta restringere, porro Petrus quia rectus erat corde, id est rectitudinis amator, respiciente se domino mox paenitendo correxit quod negando deliquit.²⁸*

（ユダは心が邪悪であったので、主自身から責められても悪しき企てを抑えようとはしなかった。他方ベテロは心が正しかった——すなわち公正を愛する人であった——ので、主に見つめられるとすぐに悔い改め、[主を]否んで犯したことを正した。）

この解釈に従うなら、(1) の *corrigere* は、今まで示された例と同様、歪んだ(誤った)ものを直くする(是正する)ことについて用いられていることになる。

IV

ここで注意すべきは、*corrigere* が、以下のごとく、曲がっている(欠陥のある)ものに用いられているのではないケースが存在するという事実である。(23)においてこの語は、道路を(修復するのではなく)新たに造ることについて用いられている。

(23) *ubi agros optime cultos atque villas expolitissimas vidisset, in his regionibus excelsissimo loco grumam statuere aiebat; inde corrigere viam, aliis per vineas medias, aliis per roborarium atque piscinam, aliis per villam. (Scip. min. orat. 20)*²⁹
 (非常に良く耕作された畑と、極めて手入れの行き届いた別荘を目にすると、彼は、この土地で一番高い所に測量器を設置するように言った。そこから、ある所ではブドウ畑の中を通して、ある所では猟園や養魚池を通して、ある所では別荘を通して、真っ直ぐに道を建設するように[言った]。)

では(23)に見られるごとく *corrigere* には「真っ直ぐに設ける」の意味もあることを考慮に入れるなら、以下のウルガータの用例はどう解釈すべきであろうか。

(24) *dicite in gentibus quia Dominus regnavit etenim correxit orbem qui non movebitur iudicabit populos in aequitate (Ps 95:10)*

(主が統治すると異邦人たちの間で言え。誠に彼は世界を直し(確立し)、それは揺るがされないであろう。彼は義をもって人々を裁くであろう。)

Hieronymus (347頃～420)は(24)の *corrigere* を含む文を“*Etenim correxit orbem terrarum, qui non commovebitur.*”の形で引用し、この *corrigere* について——恐らくは数節前の「異邦人の神々はみな悪鬼であるが故に」(“*quoniam omnes dii gentium daemonia (Ps 95:5)*”)を受けて——以下のごとく記す。

(25) *Correxit: quia errore demonum fuerat deprauatus.*³⁰

(直した:[世界が]悪鬼らによる錯誤で曲がっていたため。)

また Cassiodorus（583 頃没）も Ps 95:10 の *corrigere* について次のごとく述べる。

(26) *Crux enim Domini prauum atque distortum correxuit orbem terrae, dum per regulam fidei paganorum corda conuertit.*³¹

（なぜなら主の十字架は、それが異教徒らの心を信仰の戒律で入れ替えさせたとき、曲がりねじれた「世界を直した」からである。）

これらの教父たちの解釈に従えば、(24) の *corrigere* は歪んでいる（誤りのある）ものについて用いられていると考えられる。³²

他方、問題の箇所ギリシャ語原文、すなわち七十人訳聖書 (LXX)³³ において (24) に対応する箇所である (27) を見ると、*κατορθοῦν*（確立する）が *corrigere* の原語であることがわかる。

(27) ... *καὶ γὰρ καθώρθωσεν τὴν οἰκουμένην, ἥτις οὐ σαλευθήσεται, ...*
(Ps 95:10)

（……誠に彼は世界を確立し、それは揺るがされないであろう。……）³⁴

この語が LXX において、不正なものに用いられているのではない場合があることは、以下の、それぞれ王国、証を対象としている例から明らかである。

(28) *καὶ ἡ βασιλεία κατορθοῦτο ἐν Ἱερουσαλημ·* (Regn III 2:35)³⁵
(そしてエルサレムに王国が確立された。)

(29) *χείλη ἀληθινὰ κατορθοῖ μαρτυρίαν, μάρτυς δὲ ταχὺς γλώσσαν ἔχει ἄδικον.* (Pru 12:19)

（真実の唇は証を確立するが、粗忽な証人は不誠実な舌を持つ。）

また *κατορθοῦν* に、欠陥のあるものを対象としないケースがあり得ることは、この動詞の名詞形である *κατόρθωσις* が、次のごとく神の王座について用いられている事実からも了解される。

(30) *δικαιοσύνη καὶ κρίμα κατόρθωσις τοῦ θρόνου αὐτοῦ.* (Ps 96:2)³⁶
(正義と裁きが彼[主]の王座の支えである。)

さらに、ウルガータの詩篇には、次のごとく、(24) の “*etenim ...*” と良く似た文があるが、³⁷ ここでは *firmare*（堅固にする）が用いられている。

(31) *etenim firmavit orbem terrae qui non commovebitur* (Ps 92:1)

（誠に彼は世界を確固たるものとし、それは揺るがされないであろう。）

注目に値するのは、この語には、ウルガータの詩篇において、次のごとく神の創造について用いられている——従って欠陥のあるものを対象としているのではない——例が見出されることである。

(32) verbo Domini caeli *firmati sunt* et spiritu oris eius omnis virtus eorum (Ps 32:6)

(主の言葉により天は、彼の口の息によりそのすべての勢力は、確固たるものとなった。)

以上見られた κατορθοῦν および firmare との関連から、(24) の corrigere は (Hieronymus と Cassiodorus の解釈と異なり) 歪み (誤り) のあるものについて用いられているのではなく、「真っ直ぐに設ける、確立する」の意味で用いられているとも考えられる。³⁸

なお、Ps 95:10 の corrigere は、古英語の詩篇行間注解 (Psalter glosses)³⁹のうち、A, B, C, D, F, G, H, J, K では gereccan へ、E では gegripan (つかまえる) へ、⁴⁰ I では gerihlæcan (正す) へ訳されており、gereccan がその訳語として優勢であるのがわかる。

V

III の最後で Beda に基づく (1) の corrigere の解釈——ここでこの語は曲がった (誤った) 道 (行動) について用いられているという考え方——を示したが、(23) におけるごとく corrigere には歪み (誤り) のないものを対象にする用法もあることを前提に、それとは別の解釈の可能性を考えたい。まず以下の dirigere の例——同じくウルガータにおいて道について用いられた例——を見てみよう。

(33) corroboratusque est Ioatham eo quod *direxisset* vias suas coram Domino Deo suo (II Par 27:6)

(ヨアタムは強くなった。それは自分の道を自分の神である主の前に真っ直ぐに設けたからである。)

この dirigere は、以下の、道路に類するものの建設について用いられた例⁴¹に見られる意味——「真っ直ぐに設ける」——に基づいてとらえられる。

(34) qui . . . sed aliqua tamen parte pastinationem imitari student, paribus alternis

omissis spatiis senum pedum latitudinis sulcos *dirigunt*, (Col. 3.13.4)⁴²

（……それでもブドウ畑の地作りを多少ともまねたい人は、6歩尺の幅のあせ溝を、同じだけの間隔を交互に残して、真っ直ぐに造る。）

(35) *ferè omnes specus per privatorum agros derecti erant* (Fron. *Aq.* 124)⁴³

（ほとんどすべての水路は、私人たちの地所を通して真っ直ぐに引かれた）
注意すべきは (33) の *dirigere* の主語ヨアタムについて、その数節前に以下の記述があることである。

(36) *fecitque quod rectum erat coram Domino iuxta omnia quae fecerat Ozias pater suus* (II Par 27:2)

（彼は、彼の父オジアがなしたすべての事に従って、主の前に正しい事をなした。）

よって (33) には、正しい人が自分の道を真っ直ぐに設けた、という内容の文が見られることになり、この文の趣旨に従えば、同じく正しい人と道とのかかわりを述べる (1) の *corrige* は (Beda に基づく解釈と異なり) 曲がっている (誤りのある) ものを対象にしているのではなく、「真っ直ぐに設ける、確立する」の意味で用いられているとも考えられる。⁴⁴

そしてこの (1) の *corrige* が *gereccan* へと訳されているのは、IV の最後で示したごとく、同じく二通りに解釈できる Ps 95:10 の *corrige* が主に *gereccan* へと訳されているのと同様であると言える。

BT, s.v. *reccan* VIIa の「正す」(“*to correct*”) には、以下のとおり *corrige* の訳語である (37) の *reccan* が、唯一の例として挙げられている。

(37) *Forðon in þas tid seo halige cirice sumu þing þurh welm receð, sumu þurh monþwærnesse aræfneð, sumu þurh sceawunge ældeð, . . .* (Bede 1 16.70.33)

（なぜならこのごろ神聖な教会は、ある事は熱心に正し、ある事は穏やかに許容し、ある事は考慮の上黙認し、……）

In hoc enim tempore sancta ecclesia quaedam per feruorem corrigit, . . . (BEDA. *Hist.eccl.* 1.27, 84)

（なぜならこのごろ神聖な教会は、ある事は熱心に正し、……）

(37) で *reccan* は、明らかに何らかの不正について用いられている *corrige* の訳

語となっている。II で挙げたごとく, gereccan にも明らかに不正なもの(人・物)を対象としている corrigere の訳語の例がある。BTS は、「正す」を意味する gereccan の用例を引用するのならば, BT のごとく, これらの明確に不正について用いられている corrigere の訳語となっている例を挙げるべきであり, 歪み(誤り)があるものを対象としている——つまり「直す, 正す」の意味で用いられている——とも, それを対象としていない——つまり「真っ直ぐに設ける, 確立する」の意味で用いられている——ともとれる(1)の corrigere を訳している例, すなわち(2)の gereccan を挙げるべきではない。この点で BTS の gereccan IV(3a)における(2)の引用は適切ではないと言える。

注

1. R. Gryson et al., *Biblia Sacra iuxta vulgatam versionem*, 4. Aufl. (Stuttgart, 1994).
2. 古英語のテキストの略記と引用の仕方は, 原則として, DOE (A. Cameron et al., *Dictionary of Old English: A to G on CD-ROM* (Toronto, 2008)) に従い, ラテン語のテキストのそれは, 原則として, 同辞典または OLD (P. G. W. Glare, *Oxford Latin Dictionary* (Oxford, 1982)) に従う。なお古英語, ラテン語およびギリシャ語の引用文中のイタリック部分は, (26)を除き, すべて筆者によるものである。
3. T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary: Supplement* (Oxford, 1921), s.v. gereccan IV.
4. J. Zupitza, “Kentische Glossen des neunten Jahrhunderts,” *ZfdA* 21 (1877), 36.
5. J. Bosworth and T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary* (Oxford, 1898).
6. R. Morris, *The Blickling Homilies*, EETS 58, 63, 73 (London, 1874–80; repr. as 1 vol. 1967), p. 79. (3)はBT, s.v. gereccan IIの「並べる, 伸ばす, 指導する, 支配する, 叱責する, 正す, 征服する, 服従させる」(“*To set forth, extend, direct, order, rule, control, reprove, correct, subdue, reduce to subjection*”)に挙げられている例である。
7. J. W. Bright and R. L. Ramsay, *Liber Psalmorum: The West-Saxon Psalms, Being the Prose Portion, or the ‘First Fifty,’ of the So-Called Paris Psalter* (Boston, 1907).
8. W. J. Sedgefield, *King Alfred’s Old English Version of Boethius De Consolatione Philosophiae* (Oxford, 1899). (5)はBTS, s.v. gereccan IV(1b)の「(非物質的なものの)針路を支配する, (ある状態に)至らせる」(“*to direct the course of a non-material object, bring into a condition*”)に挙げられている例である。
9. (6)はBTS, s.v. gereccan IV(1)の「(物体の動きを)支配する, 司る」(“*to direct, regulate the movement of material objects*”)に挙げられている例である。
10. R. Weber, *Le Psautier Romain et les autres anciens Psautiers latins*, *Collectanea Biblica Latina* 10 (Roma, 1953).
11. H. Sweet, *King Alfred’s West-Saxon Version of Gregory’s Pastoral Care*, pt. 1, EETS 45 (London, 1871). (8)はBTS, s.v. gereccan IV(3)の「(人の行動などを)指導する」(“*to direct the actions,*

- &c., of a person”) に挙げられている例である。
12. B. Judic et al., *Grégoire le Grand: Règle Pastorale*, t. 1, SChr 381 (Paris, 1992).
 13. G. P. Krapp, *The Paris Psalter and the Meters of Boethius*, ASPR 5 (New York, 1932). (9) は BTS, s.v. *gereccan* IV(2) の「(人をその行動などにおいて) 指導する」 (“to direct a person in his actions, &c.”) に挙げられている例である。
 14. H. Magennis, *The Old English Life of St Mary of Egypt* (Exeter, 2002), p. 94.
 15. Magennis, p. 180.
 16. D. Yerkes, *The Old English Life of Machutus* (Toronto, 1984), p. 16.
 17. W. W. Skeat, *The Gospel according to Saint Luke and according to Saint John* (Cambridge, 1874, 1878; Nachdr. Darmstadt, 1970).
 18. T. Miller, *The Old English Version of Bede's Ecclesiastical History of the English People*, pt. 1, EETS 95, 96 (London, 1890-91).
 19. B. Colgrave and R. A. B. Mynors, *Bede's Ecclesiastical History of the English People* (Oxford, 1969).
 20. *Langenscheidts Großwörterbuch Latein*, Teil 1: Lateinisch-Deutsch, unter Berücksichtigung der Etymologie v. H. Menge, 26. Aufl. (Berlin, 2001), s.v. *corrigo*.
 21. *Langenscheidts Großwörterbuch Latein* は *corriger* の「(曲がったものを) 真っ直ぐにする」の意味に続いて、「比喩的」(“Übr.”) として a の「(誤りのあるものを) 正す, より良くする, より完全に, 修正する, 償う」 (“(Fehlerhaftes od. Verkehrtes) berichtigen, verbessern, bessern, zu größerer Vollkommenheit bringen, korrigieren, abändern, wieder gutmachen, ausgleichen”) を挙げている。また C. T. Lewis and C. Short, *A Latin Dictionary* (Oxford, 1879), s.v. *corrigo* でも, まず「真っ直ぐにする, 直す, 整える」 (“to make straight, set right, bring into order”) の語義が示され, II で「(比喩的意味で) 改善する, 正す, 回復する, 償う, など」 (“Trop., to improve, amend, correct, make better, reform, restore, make good, compensate for, etc.”) が挙げられている。
 22. (17) ~ (19) は *OLD*, s.v. *corrigo* 2 の「真っ直ぐにする」 (“To make straight, straighten out”) に挙げられている例であり, (20) は Lewis and Short, s.v. *corrigo* I に「本来の意味で」 (“Lit.”) 用いられた例として (18)(19) と共に ((17) は I.B に「諺的」 (“Prov.”) に用いられた例として) 挙げられている。
 23. B. Radice, *Pliny: Letters, Books I-VII*, Loeb Classical Library (LCL) 55 (1969), p. 364.
 24. J. C. Rolfe, *Suetonius*, vol. 1, rev. ed., LCL 31 (1998), p. 302.
 25. F. G. Moore, *Livy: History of Rome, Books XXVIII-XXX*, LCL 381 (1949), p. 314.
 26. F. J. Miller, *Ovid: Metamorphoses, Books IX-XV*, rev. by G. P. Goold, LCL 43 (1984), p. 40.
 27. 以下生没年は A. Blaise, *Dictionnaire Latin-Français des Auteurs Chrétiens*, rev. par H. Chirat (Turnhout, 1954) の出典リストによる。
 28. D. Hurst, “In Proverbia Salomonis Libri III,” *Bedae Venerabilis Opera*, pars 2, 2B, CCSL 119B (Turnholt, 1983), p. 111.
 29. H. Malcovati, *Oratorum Romanorum Fragmenta Liberae Rei Publicae*, quartum ed., 1: Textus (Aug. Taurinorum, 1976), p. 129. (23) は *OLD*, s.v. *corrigo* 1 の「(道路を) 直線に導く」 (“To direct (a road) in a straight line”) に挙げられている例である。

30. G. Morin, "Commentarioli in Psalmos," S. Hieronymi Presbyteri Opera, pars 1, 1, CCSL 72 (Turnholti, 1959), p. 226. G. Hoberg (*Die Psalmen der Vulgata*, 2. Aufl. (Freiburg im Breisgau, 1906), p. 353) は、この corrigere が、ギリシャ語原文の κατορθοῦν に由来することに触れつつ、「最初に世界を整えたことについて」("von der ersten Einrichtung der Erde") 用いられていると述べ、これとは異なる解釈が存在したとして、この Hieronymus の引用を示している。
31. M. Adriaen, *Magni Aurelii Cassiodori Expositio Psalmorum LXXI-CL*, CCSL 98 (Turnholti, 1958), p. 867.
32. A. Sleumer, *Kirchenlateinisches Wörterbuch* (Limburg a. d. Lahn, 1926), s.v. *corrigo* でも 2 の「正す」("zurechtweisen") のもとに Ps 95:10 が挙げられている。
33. A. Rahlfs, *Septuaginta*, ed. altera (Stuttgart, 2006).
34. Holy Transfiguration Monastery, *The Psalter According to the Seventy* (Boston, 1997) の (27) の訳 "... For He hath established the world ... (p. 175)" 参照。
35. (28) は J. Lust et al., *A Greek-English Lexicon of the Septuagint*, rev. ed. (Stuttgart, 2003), s.v. κατορθόω の「(ある物を) 確立する」("to establish [τι]") の例として挙げられている。このような「王国を確立する」(κατορθοῦν τὴν βασιλείαν) という表現は LXX においてさらに Par I 28:7; Is 9:6 に見られ、J. F. Schleusner (*Novus Thesaurus Philologico-Criticus: sive, Lexicon in LXX*, ed. altera, 3 vol. (Glasgae, 1822), s.v. κατορθόω) は、問題の (27) に続けてこれらの 2 箇所を挙げている。
36. (30) は H. G. Liddell and R. Scott, *A Greek-English Lexicon*, 9th ed. (Oxford, 1940), s.v. κατόρθωσις 2 の「真っ直ぐに据えるもの」("setting up") に挙げられている例である。このギリシャ語はウルガータでは corrigere の名詞形の correctio に訳されているが、Hoberg は問題の Ps 95:10 における corrigere の用法との関連で、この κατόρθωσις の訳語としての correctio を参照させている (p. 353)。
37. Hoberg は問題の Ps 96:10 の "etenim" 以下について (31) を参照させている (p. 353)。
38. J. Ecker, *Porta Sion: Lexikon zum lateinischen Psalter* (Trier, 1903), s.v. *corrigo* でも 1 の「建てる、強固にする、存続させる」("errichten, festigen, Bestand geben") に Ps 95:10 の "etenim correxerit orbem terrae" が引用され、「彼は世界を確立した故に」("denn er hat festgestellt den Erdkreis.") と訳されている。
39. 古英語の各種詩篇行間注解は A ~ K で表す。それぞれのテキストは以下の通り。A = *The Vespasian Psalter*, S. M. Kuhn (Ann Arbor, 1965); B = *Der altenglische Junius-Psalter*, E. Brenner, AF 23 (Heidelberg, 1908; Nachdr. Amsterdam, 1973); C = *Der Cambridger Psalter*, K. Wildhagen, Bib. ags. Prosa 7 (Hamburg, 1910; Nachdr. Darmstadt, 1964); D = *Der altenglische Regius-Psalter*, F. Roeder, Studien zur englischen Philologie 18 (Halle, 1904; Nachdr. Tübingen, 1973); E = *Eadwine's Canterbury Psalter*, F. Harsley, EETS 92 (London, 1889); F = *The Stowe Psalter*, A. C. Kimmens, (Toronto, 1979); G = *The Vitellius Psalter*, J. L. Rosier, (Ithaca, NY, 1962); H = *The Tiberius Psalter*, A. P. Campbell, Ottawa Mediaeval Texts and Studies 2 (Ottawa, 1974); I = *Der Lambeth-Psalter*, U. Lindelöf, Acta Societatis Scientiarum Fennicae 35, 1 (Helsingfors, 1909); J = *Der altenglische Arundel-Psalter*, G. Oess, AF 30 (Heidelberg, 1910; Nachdr. Amsterdam, 1968); K = *The Salsbury Psalter*, C. Sisam and K. Sisam, EETS 242

(London, 1959).

40. この E の注解は *DOE*, s.v. *geripan* 4.b において「(世界を) 直す, 改善する」(“to set right, reform, amend (the world)”) を意味する *corrige* への注解となっている例として挙げられている。ここで *DOE* は 4.a—*gegripan* が「叱責する, 非難する」(“to rebuke, censure”) の意味の *corripere* に, それが「つかまえる, 捕らえる」(“to lay hold of, seize”) の意味であるかのごとく注解として与えられているケース——を参照させて, *gegripan* が *corripere* に与えられるかのごとく用いられた可能性を示唆している。
41. (34)(35) は *OLD*, s.v. *dirigo* 1 の「定まった線に沿って, または定まった方向へ配置する, 一列に並べる」(“To arrange along a fixed line or in a fixed direction, align”) の c「(道路などを) 与えられた線に沿って建設する, ……」(“to construct (a road, etc.) along a given line; …”) に挙げられている例である。
42. H. B. Ash, *Lucius Junius Moderatus Columella: On Agriculture I-IV*, LCL 361 (1941), p. 310.
43. C. E. Bennett, *Frontinus: The Stratagems, The Aqueducts of Rome*, LCL 174 (1925), p. 454.
44. ちなみにヘブライ語原文では (1) の *corrige* と (33) の *dirige* は同じ動詞に対応しており, 旧約聖書翻訳委員会訳『旧約聖書 IV』(岩波, 2005) は (1), (33) に相当する箇所を, それぞれ「……自分の道を確立する。」「……自分の道を整え[ながら生き]た……」(補足は原文のまま) と訳している。なお『舊約聖書 ヴルガタ全譯』第 3 卷 (光明社, 1957) は (1) を「……己が道を正す。」と訳す一方で, 注には「義人は事をなす前に, それを正しくしようと心を配る。」(上点筆者) と記しており, この注釈は筆者の主張と矛盾しない。